

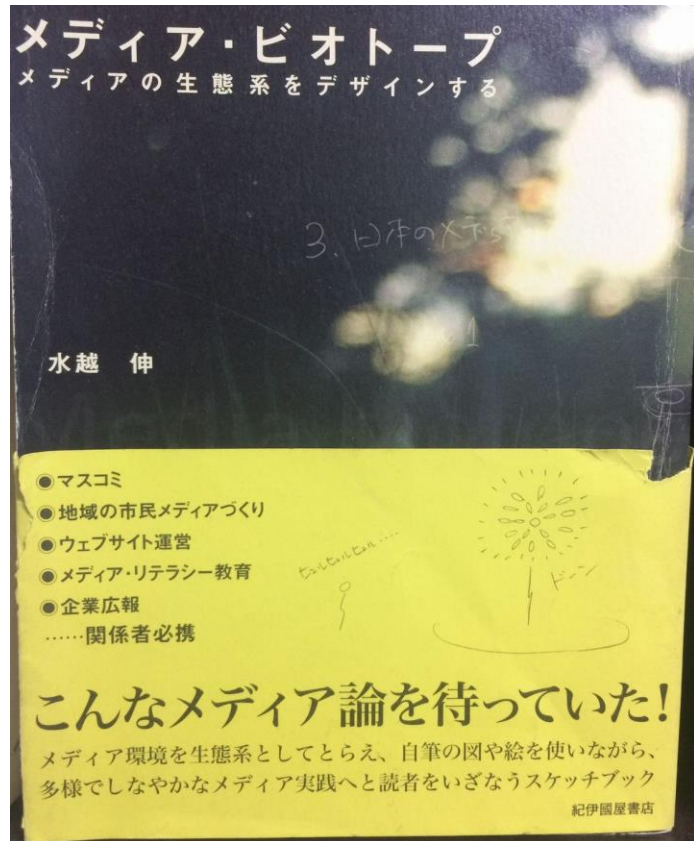
「メディアビオトープ論」

TOHOKU360タイプのウェブメディアに期待するもの

佐藤 和文 (メディアプロジェクト仙台)

2019年11月23日

メディア・ビオトープ



メディア環境の激変

- 既存・伝統的なマスメディアが支配する「1対多」の情報環境を批判的にとらえ、向かうべきメディア環境を「ビオトープ」になぞらえる。
- 大きささまざまで、理念も多様なメディア群が多数登場するイメージ。
- そこに出現するメディア環境は、「1対多」の情報力学とは対照的な世界だ。多様な動植物が多様に生きる環境保全型の持続する生態系に似ている。
- 人がメディアと向き合うときの関係も、一新される。

既存のマス メディアに 期待するの は難しい？

- 重要なのは、既存のマスメディアが単独で「ビオトープ」を構想するのは難しいという点だ。
- 少なくとも、地域社会やそれを支える人々を、「ビオトープ」環境を構想するパートナーとして、とらえるセンス、能力が必要になる。
- 水越氏の著作発表後、いわゆる「ヘイトコミュニティ」「フェイクニュース」の問題などがあらわになった。メディアの全体構想をデザインし直すうえで、避けられない問題だ。既存のマスメディアに、それを担う度量があるか？

TOHOKU360 タイプのメ ディアに期 待する

- これまでのニュースメディア
専門的な訓練を受けた人たちが発信・流通させるスタイル
受け手は定時、定型の情報を受け取り、消費するだけ。
ニュース配信後、受け手社会で何が起きているかに誰もが無関心
- これからのニュースメディア：TOHOKU360タイプ
ニュースが生成されるあらゆる過程に、多くの人々が参加可能。
目指すべきは「**遅眼複眼**」。あえて急がずじっくり、多様な観点を重視。

ウェブ環境 と向き合う

- 1対多のメディア環境を得意とする既存のマスメディアとは対照的なメディアセンスが育ちつつある。取材の端緒からニュースの作成・編集、発信、配信後のコミュニティ動向や配信したコミュニティとの双方向のメディア過程など、あらゆる面で新しい環境がベースとなる。参加型・双方向のメディア。
- ウェブ環境を前提にしている。デジタルとアナログの融合や間もなく登場するAI（人工知能）やロボットなどメデの新メディア技術との関係でも柔軟なメディア属性を有する。
- 非営利のメディア環境をベースに、地域やグローバルなテーマに寄り添ったビジネスモデルの開発の主体となりえる。

メディア群が相互に連
携する可能性
